



## 副学長就任のことば

### 滋賀医科大学副学長に 就任して



馬場 忠雄  
副学長  
教育、研究及び  
厚生補導担当

この度副学長の指名を受け、厳しい状況下におかれている大学運営の一翼を担うことになりました。

今、医学部の教育改革が求められていますが、大学は学生を中心として存在するとの視点から、教育、研究、厚生補導を総合して、社会から期待される医療人の育成について、一層の努力が必要であると痛感しています。

イードバック委員会が組織され、活動していますが、より充実するためには、客観的な評価方法についても検討しなければならぬと考えています。

#### 3. 研究体制について

研究に大学院生の占める位置が大きく、本学では大学院の充足率が高いことが評価されています。最近では英文の平均impact factorはS2と徐々に上昇していますが、修士時に学位論文を提出できるものが約50%です。大学院での研究の中間点で、それぞれの研究の進展と問題点を整理し、内容をレベルアップするProgress reportは、これらの問題点を解決する上で重要と考えられます。

国際競争力に勝つ研究成果を上げるには、基礎と臨床と分けることなく、共通の研究テーマのもとに結集して研究を推進しなければならぬと考えられます。

#### 4. 学生厚生補導について

医療人として患者とのコミュニケーションは基本ですが、人間関係を保つことがしばしば困難である学生がいるのが現実です。保健管理センターを中心として、学生の心身の健康を重視した指導の積み重ねが必要だと考えています。

少子化が進むなかで、目的意識をもった学生を受け入れるにはどうすればよいか、基本的な重要な課題があります。大学の教育・研究・診療に対する積極的な取り組みを社会に公開し、本大学の目指すものを理解していただくことも大切でしょう。

当大学の一層の発展にはいろいろな課題がありますが、諸先輩の実績の上に学内の英知を結集し、望まれる医療人の育成を基本理念とした大学作りを努力したいと考えています。

2. 教育の評価システム  
学内で教育ワークショップを行い、教育方法について教官の理解を深め、卒前教育の充実につなげたいと考えています。研究や診療は比較的容易に客観的に評価しうるものですが、教育に対しては、客観的に評価する指標に乏しいのが現状です。教育フ

### 滋賀医科大学医学部 附属病院長に就任して



森田 陸司  
副学長  
医療担当  
病院長

就任に当たって、この2年間枚方市にある新香里病院の病院長として、外から滋賀医科大学附属病院を見た経験に基づき、病院長就任の所感を述べさせていただきます。

#### 1. 接遇改善について

「医療は患者さんのためにある」という原点に立ち戻る必要があります。患者さんの立場に立つ医療は、医療行為のアカウソタヒリテイ、インフォームド・コンセントからカルテ開示に連なっていくものと思います。

#### 2. 先端医療の開発の推進

最先端の医療を地域に提供すると共に、新しい医療技術を開発することは、国立大学病院として社会から期待されている責務です。

滋賀医科大学の特長を生かした特化した分野で、基礎、臨床、理工学や産業界の専門集団を結集して大プロジェクトを組み、その協同により世界に誇れる創造的な新技術を生み出す努力をすべきではないかと考えます。

#### 3. 地域への働きかけ

病診連携  
コンピュータによる「滋賀医療情報ネットワーク」を利用して、病診連携のみならず、病病連携、訪問看護、保健所、福祉施設、患者さんとの間に双方向性の情報交換が行われることを期待しています。

地域住民の健康教育など  
地域の病院としての責務の一つに、地域住民の健康保持への努力があります。それには、医療の動向、地域の需要に合わせ、医師会、福祉保健機関、行政、産業界との密接な連携が必要です。

多くのボランティアの方々が、病院内で活躍されていることに感謝しています。さらに、絵画などの展示会や演奏会が企画されて、健康な人々も訪れる地域のコミュニティとして機能できたらと夢見ています。

#### 4. 医療事故の絶滅・予防について

本院では、「医療事故防止委員会」を中心に、院内相互チェックなどが発足して良い成績を上げていますが、さらにリスク・マネジメント、QC（品質管理）活動を行うって、急速に進歩する医療技術や医療環境の変化に即応した安全対策を確立する必要があります。

#### 5. 卒前・卒後教育について

平成16年から卒後臨床研修が必修化されることになっております。大学病院のみならず、関連病院や老人保健施設などを含む多様な研修施設を組み込んで、一体化したカリキュラムを構築する必要があるかと思えます。

#### 6. 病院財政について

独立法人化に向けて、医療収支の改善は急務の課題です。職員一人一人がもつと経営意識を持って、収入の増加と経費の節減に励む必要があります。また、部門別原価計算を行って、利益を生む部門への資金の集中や人力の再配置を考慮すべきものと考えます。

その他課題は沢山ありますが、職員全員が智慧を絞って、できるものから解決する努力をしながら、「明るく活力のある病院」「患者さんに安心して選ばれる病院」を目指したいと考えています。